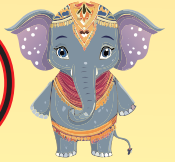


人間文化学科通信

号外①



ナマステは、インドのヒンディー語で、「こんにちは」の意味です。

私は、いつも授業の最初は「ナマステ」で始めます。ハ木ガミは、南アジアを中心に、アジアの文化や社会について研究をおこなうガミです。

現地に赴くフィールドワークや様々な文献の購読・発表をつうじて、理解を深めていきます。

今年のガミは4年生が11人、3年生が7人とにぎやかです。

ハ木ガミの特徴

1つめの特徴は海外に関心がある学生が多いことです。この10年ぐらいでも、インド、イタリア、マレーシア、インドネシア、フィリピン、韓国などに留学したり、日本語パートナーズで派遣されたりしたガミ生が少なからずいます。

2つめは、親睦を深めるため、ガミのイベントが多いということです。今年度は、手始めに、4月中旬頃、3、4年ガミそれぞれで、大学の中庭で花見をしました。4年ガミの花見では、桜はまだ蕾でしたが、3年ガミの花見では満開でした。どちらのガミでも、就活で参加できなかった人もいましたが、最近、ハマっていることや春休みの近況報告で盛り上がりしました。



3つめは、私の専門がインド研究、文化人類学、ジェンダー研究なので、ガミ生たちは、南アジアはもちろん、アジアの文化と社会に関するジェンダーや社会問題に関して、幅広い研究をおこなっていることです。2023年度と2024年度の卒論のテーマを一部紹介します。「LGBTQ問題の解決に向けて一人権尊重の観点から」「ブータン人にとっての幸福のあり方」、「ジェンダー意識の変化—『男/女らしさ』に焦点を当てて」「ジブリ映画から見る女性像—宮崎駿監督作品に着目して」、「バングラデシュの縫製工場働く女性たち—労働問題の解決に向けて—」、「アンベードカルによる改宗運動と現状」、「タイの上座部仏教におけるジェンダー構造—メーチーに焦点を当てて—」、「スリランカの教育—課題と展望—」、「ネパールのクマリ信仰—文化の変容と理解—」、「インドにおけるカシミール問題—歴史と課題—」などです。

現在、3年ガミではインドの女性に関する英語文献を読み、4年ガミでは各自のテーマに関わる先行研究を中心に卒論の発表をしています。楽しく面白く学ぶのがモットーですが、最終的には自分の足で歩き、自分の目でみて、自分の頭で深く考えることができる学生を育てたいと思っています。

＊ハ木ガミの学びについて、もっと知りたい方は、本学広報誌「Partir (バルティール)」31号に、ガミ生との座談会の様子が掲載されていますので、HPでご覧ください。
ガミ教員 ハ木祐子

